

地方自治ここにあり 首長インタビュー

町民とともに、子育て支援県下一、 小さくてもキラリと光るまちをめざして

紀美野町長 小川 裕 康 さん



小川紀美野町長

7月30日、紀美野町小川裕康町長を九鬼、大前で訪ねました。紀美野町は平成18年に旧美里町と旧野上町が合併し、人口約7,800人、4,000世帯のまちで、中央を東西に貴志川が流れる自然豊かな美しいまちです。

大前：紀美野町長のインタビューは、14年前の寺本町長2期目の時に来させていただきました。寺本町政のあとを引き継ぎ、町長になられて3年この間に町長として大事にされてきたことは。

町長：私は旧の野上町役場で合併まで総務課長を3年、合併後は寺本町長の下で副町長をさせていただきました。令和3年に寺本前町長の突然のご逝去を受けて、自分が生まれ育ててもらった紀美野町を少しでもいい町にしたい。町民の皆さんが、住んでよかったと思える町にしていきたいと町長選に立候補させていただきました。

皆さんとともに」です。町内各地域で開催されるイベントや地域の伝統行事に参加し、皆さんと交流する。そして笑顔あふれる町づくり、小さい町ですがキラリと光るまちをめざしています。

地域に新しい風が吹く 一方で、人口減が進むまち

大前：紀美野町は、都市部からの移住が盛んで、新しいお店が増えて地域に活気があり、新しい雰囲気があります。しかしもう一方では、4月に発表された消滅可能性自治体とも言われましたが、その辺は町長、どうお考えでしょうか。

町長：少子化は紀美野町だけでなく、全国的な大きな課題です。紀美野町でも子どもが生まれる数が減少する一方で、高齢で亡くなる方が増加し、人口の自然減が大きいです。しかし移住などで転入されるなど人口の社会増減はほとんどなくらいです。

九鬼：移住される方がやはり多いんですね。

町長：町内で子育てをしやすいうように、子育て支援策を積極的に実施し、少しでも子どもが増えれば自然減を少なくし、人口の減少が緩やかになると思っています。

移住・定住支援には、早くから取り組んできました。平成18年に「定住を支援する会」が発足しました。これまでに107世帯205人の方が移住されています。

平成18年に和歌山県が団塊の世代をターゲットに移住に力を入れるということで、5町がモデル町に指定され、当町もその一つでした。移住施策をすすめる中で、団塊の世代だけでなく若い世代も増えたい、紀美野町で子どもを産みたい、育てたいと思って来られた方もいらっしゃいます。

また、地域おこし協力隊員は、これまで23名を委嘱しました。いろいろなミッションがあり、各地区のまちおこし活動や移住定住に関わる支援、民泊推進、きみの地域づくり、学校運営など、また昨年からは推進している自伐型林業に4人の方に来ていただいています。そういった方々が、町に新しい風を吹き込んできてくれています。これまでの地域おこし協力隊の方たちの多く



小川地区の中田の棚田

は、卒業後も紀美野町で定住され、カフェや民泊等を経営されています。

協力隊員が中心となり サポーターと進める 中田の棚田再生プロジェクト

大前：私も2年前に中田の棚田再生事業に來られた地域おこし協力隊の方にお会いしました。また、昨年「きみの地域づくり学校」で地域おこし協力隊の方にお世話になりました。

町長：中田の棚田は、6000年の歴史のある棚田で、「ま

ちづくり推進協議会」で、「棚田の再生」という案が出され、令和元年に活動が始まりました。その年に棚田地域振興法が制定されて指定棚田地域に指定されました。今年で6年目となります。町では棚田担当職員が和歌山大学大学院に入学し1年間、全国の棚田再生の勉強をしました。また、地域おこし協力隊を入れて進めているところです。

大前：私も見に行きましたが、規模も大きく壮観な棚田で、高野領で歴史のある棚田なのです。

町長：あの辺はもと高野領で記録も残っていて、米をつくって上納していたという歴史があります。小川地域棚田振興協議会の会員は30人弱ですが、ボランティア、サポーターの皆さんが協力してくれ、今年の田植えは6月1日、2日の土日で、250人を超え、の方が協力してくれました。

九鬼：サポーターは地域外からも来てくれるのですか。

町長：中学生、海南高校の野球部の皆さん、和歌山大学の学生さん、もちろん一般の方も、県外からも来られる方が大勢います。そこでは関係人口づくりが進んでいます。

大前：2年前は、一部しか田

に復元されてなかったのですが、だいぶん進みましたか。

町長：現地の様子が随分形が変わって来ました。草刈りから始めて、大きな木の根を掘り返して田に戻して、去年は米を1000キロ位収穫できましたと聞いています。去年は7町、今年は12町ぐらいを耕作しているということです。

九鬼：棚田を耕作していた人はどうしているのですか、集落の人たちは、どっかへ転出したとか。

町長：いえ、いらつしやいますが、高齢で耕作できなくなってきたということです。

九鬼：放棄地になっていったということですね。

町長：令和元年度に始めた頃には2人の方が耕作されましたが、今は1人になっていきます。棚田の面積は約10畝あります。

空き家対策と 移住定住の取り組み

九鬼：移住者に対する補助とかはどんな制度がありますか。

町長：移住者の方に対する補助金は、家のリフォームに2/3補助で上限100万円の空き家リノベーション補助金。それに県の補助金100万円を合わせて最大200万円の補助金が受けられます。また、今年から現地訪問などの相談者に交通費の半額補助。相続登記ができていない場合に相続登記費用の半分を補助します。もう一つは、町が空き家を借り受け、町がリフォームして住めるような状態にして、移住者に貸し出す事業を、今年から始めました。

九鬼：以前寺本町長にお話を聞いた時には、和歌山大学の協力で空き家調査をやられたと聞いたのですが。

町長：和歌山大学のシステム工学部の先生が10数年前から6回もやって来ています。なので、全町内の空き家を調査してくれて、どの地区に何軒あるというのは把握できています。大変重要で貴重な資料です。

大前：空き家はあるけど、なかなか貸してくれないと、どの地域でも聞くのですが。

町長：一番大きいのは仏壇のことです。次には、住めるようにするには費用が掛かりすぎて断念するケースがあります。紀美野町に実家があつて仏壇を置いてあり、子どもさんたちはたまに來られて拝んでいる。そういう場合でも話が進む場合もあります。

九鬼：どこの市町村でも、空き家問題で苦労しています。紀美野はかなり前から、対策を進めてきた積み重ねがありますね。

町長：そうですね。まちづくり課が担当で、移住施策は職員と集落支援員2人の態勢です。移住相談のワンストップパターソンと集落支援員の2人が、大変親身になって、いろいろとやってくれています。移住された方の話によれば、対応する人がどれだけ親身になって相談に応じて空き家を案内するかが、移住先を決める決め手になるようです。

大前：ここには移住者の団体があると聞きましたが。

町長：「NPO法人きみの定住を支援する会」です。いろんな移住のお世話もするし、移住されてきた方々の親睦を図る交流会を毎年やっていて、60、70人が家族で來られます。移住者同士の交流は大事で困り事とかを話しやすいと聞いています。コロナのときはできなかつたのですが、去年から復活しました。私達も参加して、いろんな方と話をします。できるだけ、出かけて行って直接話をするのがいいと思います。

九鬼：何年か前に和歌山県で一番住みたいまちが紀美野町だと言われたと思うのですが、その背景が、こうした住民の声や移住者の声を直接反映するというのもあるのでしょうか。

町長：そうですね。また、紀美野町へ住みたいけれど、すぐに家が決まらない方には、4戸ある短期滞在施設に住んでもらって、利用期間1年間の間で住みたい家を探してもらい、気に入った家をリフォームされる方が多くいます。

九鬼：移住者の方は、現役世代の方が多いのですか。

町長：いろいろですね。小さい子どもさんのいる家庭とか、3月に退職して4月から来られた人とか、いろいろな年齢の人がいます。

九鬼：仕事や生活手段というのも大事になると思うのですが。

町長：紀美野町でも平成26年に、町内どこでも光回線が通じる環境になりました。山間部でパソコンで仕事される方もいるし、もちろん和歌山市内に勤める方もいらっしゃいます。農業を始める人もいます。農業だけでは生活が難しいので、半農半Xとか半林半Xとか、農閑期に他の仕事を

手伝ったり、民泊経営の傍ら、農業の手伝いに行くとか、いろいろです。移住で一番大事なのは住むところです。仕事は条件を選ばなければあるようです。それから、紀美野町にはお洒落なお店が増えてきているので、そこでお手伝いする人もいますね。

自伐型林業推進で 林業の再生を、農業振興は 山椒づくりを推進

大前：先ほど自伐型林業の話もされていましたが、昨年開催された自伐型林業の紀美野研修会をYouTubeで見ましたが、自伐型林業での地域おこし協力隊の方は何人いるのですか。

町長：去年から2人、今年2人で4人です。ただ、もともと林業家ではないから、山を貸していただき、木を切る練習、訓練とかをやっています。協力隊員としての3年間に、しっかりと勉強して卒業したあとに、自分で起業することを考えてもらいたいです。

大前：龍神の林業家の方に自伐型林業の話を聞きましたが、理念は素晴らしいのだけでも経営していくとなると、大変だという話もされてきました。

町長：もともと紀美野町には、20年前から、自伐林家の方もいるのです。広大な山を持つていて、冬の間木を切つて、木材市場へ持つて行き、それ以外のときは、農業とかいろんなことをされています。林業だけで生計を立てるのは難しいですが、林業をしながら生活することは可能と聞いています。

森林環境譲与税は、今年度で3600万円位です。それをうまく活用して、林業家を増やしていきたいと考えています。

自伐型林業というのは小規模な林業で、山を管理する林道も小さく壊れにくい林道をつけていくということで、山林をしっかりと管理し、災害から町を守るという面があります。伐採も皆伐でなくて木を選んでは少しずつ切っていく。皆伐すれば土砂、水害の恐れも高くなるけども、2割ぐら

いの伐採ならばそれは大丈夫みたいですね。

大前：紀美野町の農業や農産物といえばどんなものがありますか。

町長：農業は、もちろん米もつくっていますが、柿とみかんや柚子と、山椒なんかも人気があって、値段もいいみた

いんです。

事を進めてくれています。また、かつらぎ町新城地内の国道370号の改修が始まりま

九鬼：ぶどう山椒ですか。

道370号の改修が始まります。それが出来れば高野山までの時間ももっと短縮されま

町長：そうですね。今は、海外にも出荷されています。山椒はジャパニーズペッパーと言われています。当町では約50軒の農家が栽培されており、売れ行きも好調のようです。新たに植えようという方も多く、苗が入らないほど人気が出てきました。2年前から山椒苗木の購入に町から補助金を出して推進しています。

九鬼：旧美里町と旧野上が合併して18年ですが、地域間格差というか、美里の方がやはり衰退が厳しいと思のですが、住民から意見は上がってきていませんか。

山椒は、実がなるまでには5年位かかり、20年から30年で植え替えなければなりません。

町長：人口の減り方は、旧の美里地区の方が旧野上地区より多いと思います。格差かは行政の中では全くないし、旧の美里地区の国道も良くなって、行き来しやすいし、例えば、交通の問題で買物とかでも、コミュニティバスを運行しています。新たに、高齢者のタクシー券でバスやタクシーで利用出来る補助制度も始めました。また、一番東の長谷毛原地区では診療所への送迎サービスや、「きみのり」という車が2台あります。その車を地域の方々がボランティアで運転して高齢者を買

道路整備や 交通弱者の交通政策、 「きみのり」について

大前：国道370号の整備が進み、海南から高野山に行くのが走りやすくなっています。整備はほとんど終わったのですか。

町長：国吉地区から毛原地区へ通じる国吉毛原トンネルが2年前に供用開始され、現在はトンネルの前後の拡張工

九鬼：「きみのり」というのは、

紀美野町 子育て支援年表

項目	※1 妊産期	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小学生	中学生	高校生
預かり時	子育て支援センターの一環3泊り (保護者3泊、1泊)									
一七〇園・学校	ファミリーサポートセンター事業 (児童の預かりの援助を受けた日と当該援助を行った日との相互援助活動)									
	認定こども園 (公立2園) 認可こども園 (認可外) 保育料・給食費等の無償化									
居場所	プレイルームの開放(子育て支援センター) 9:00~17:00 (祝日・年末年始除く)									
	子ども保護者の居場所(きみのスマイル) (不登校等、事業を悩んでいる子どもや、子育てに悩む保護者の居場所)									
保健・相談	母子保健推進員 (0歳~1歳までの期間)									
	子育て支援センター(訪問・相談)(総合福祉センター2階)									
交流	産後ケア事業 (産後1週間)									
	カンガル教室 (あそびの教室)									
保健	乳幼児健診 (4か月・1歳・2歳)									
	6ちゃんクラブ (0歳・1歳・2歳)									
経済的支援(手当・助成)	子育て世帯へのこみ配給									
	児童手当(※令和6年10月から18歳まで)									

子育て支援年表 (紀美野町HPより)

どんな仕組みで運行されているのですか。

町長：長谷毛原地区のまちおこし団体「元気長谷毛原会」が運営されています。車はトヨタのモビリティ基金から町が贈呈を受け、それを無償で貸与しています。ボランティアの運転手が、週1回貴志川や橋本方面へ買物に行きます。経費の一部は介護保険の移送サービスを使っています。ガソリン代程度は、利用者に負担してもらっています。

九鬼：乗り降りの介助とかをしている。

町長：地域の方々17人がボランティアで運転手を引き受けてくれて、その方々が介助もしてくれていると思います。

九鬼：これは、美里の方だけです。

町長：はい。紀美野町の長谷毛原地域です。

大前：それ以外に、タクシースの補助と、診療所の送迎ですか。

町長：長谷毛原地区と国吉地区に、へき地診療所があり、通院は片道200円でタクシー会社が送迎してくれています。家からドアツードアで診療所まで行けます。

大前：高齢者のタクシース券というのは、どんな制度ですか。

町長：チケットになっていて年間18,000円分を支給します。交付対象者は75歳以上の上の世帯の方と、65歳以上で免許を持っていない方や免許返納者、障害のある方が、妊婦さんも対象にしています。

大前：交通対策はコミュニティバスをメインにいくつか補完的にやられているのですか。

町長：バスは幹線道路しか走れないので、歩くのが不自由な方には、タクシース券を使ってもらえるようにしています。

町長：コミュニティバスが中心ですが、バスは幹線道路しか走れないので、歩くのが不自由な方には、タクシース券を使ってもらえるようにしています。

町長：子育て支援についてお聞きしたいのですが。

町長：子育て支援県下一を指して、令和4年3月に「紀美野町子ども子育て応援宣言」をしました。それで全庁的な組織である子育て支援推進本部を立ち上げ、支援策の協議を行いました。支援は妊娠前から始め、大学を卒業し、町内で住まいをされている30歳の方まで支援策を設けました。

町長：そうですね。子どもが1人目は10万円、2人目以降なら20万円のお祝い金。小学校入学には5万円、中学校入学は8万円のお祝い金。もちろん18歳までの医療費の無償化や、こども園での給食や保育料の無償化、小中学校の給食も無償化にして、児童手当は、中学3年生まででしたので、町単独で新たに去年から高校生に対して、通学を支援するために高校生世代応援手当をつくりました。

大前：通学の手当を。

町長：高校生世代を支援するということで、月1万円です。これは何に使っても良い。高校生になったら全然支援がなくなるので、去年から応援手当をつくりました。

子育て支援策はいろいろあるので、それを見やすいように、年表にまとめました。妊娠前から、最終、大学卒業後まで分類しました。例えば0歳であればどんなサービスが受けられるか、小学校へ上がればどんなサービスが受けられるのか、保護者の方にわかってもらいやすかったです。

大前：手続の漏れがないようにというか。

町長：そうですね。合併後、間もなくして発足し、以後ずっと継続され進化を遂げてきています。会員は61人。全体の会もあるし、ブランドづくり部会、美しい郷づくり部会、紀美野史発見部会という3つ

住民自らがまちづくり「まちづくり推進協議会」というのは、町全体なのですか。

町長：全体です。合併後、間もなくして発足し、以後ずっと継続され進化を遂げてきています。会員は61人。全体の会もあるし、ブランドづくり部会、美しい郷づくり部会、紀美野史発見部会という3つ

の部があつて、それぞれに分かれて活動されています。今年度からは、子育て世代に向けた活動も始まっています。九鬼：いろんなことを相談して、こういうことをしてほしいとか要望などがあれば、町との関係ではどうなるのですか。

町長：協議会に対して町からも補助金を出して、事務局もまちづくり課が担当しています。そこで、いろんな事業を協議会で創設してやっています。町は後方支援をしています。

九鬼：メンバーの年代層はどんな方ですか。

町長：メンバーは、結構幅があります。30代の若い人からは70代の方がいます。

豪雨災害の復旧状況は

大前：昨年6月2日の豪雨災害の復興は順調に進んでいるのですか。

町長：私達も全く初めての経験で、3時間で140ミリの豪雨は経験もないし、川の水位も1時間で2メートルぐら上がりました。お1人の方が濁流に流されてまだ発見できていない。本当に残念なことです。床上、床下浸水含め

て建物の被害は150件ぐらいあり、町営住宅で避難生活をされた方もいました。今回初めて社協にお願いしてボランティアセンターを立ち上げていただきました。発災の3日後の5日には、ボランティアセンターが立ち上がり、県内外から約400名、他に職業ボランティアの方も約400名、合わせて800名を超える方々が応援に来てくれて、家の中の泥出しやゴミ出しをしてくれました。外へ出されたゴミや泥が運搬し、うまく分担ができて、スムーズに復旧が進んだ部分がありました。

公共の復旧事業は件数が多いので、まだまだ継続中です。特に河川や道路の被災が多く、500件ぐらいあったと思います。今工事中のものもあるし、まだ着工できてないところもあります。

職員にも依拠して

消滅可能性自治体からのチャレンジ

大前：和歌山大学へ職員を、勉強に出したり、「きみの地域づくり学校」とか、地域おこし協力隊をいち早く導入したり、新しいことにチャレンジ

ジされている職員さんも多いように思いましたが、秘訣はどうなのでしょう。

町長：アンテナを高く上げ、これはいいと思ったものはすぐに検討する。職員間の風通しも良くないとダメです。職員がいろいろ、考え、見て勉強してきたことを取り入れたらいいと思っています。人口も8000人を切って、「消滅可能性市町村」とか言われていますが、今年の町政報告会でも「テレビで消滅可能性とか言うけど、うちの町がなくなるのか」と言われました。私は、「そうならないように、いろいろな事業とか取り組みをやっています。」と答えました。

九鬼：平野高野町長のインタビューで、高野町が近畿で一番、消滅可能性自治体と言われたときに、町長は、「20年後に、ああ言われたけども見返してやるまことにしたい」と言っていました。

町長：そのとおりです。高野町はなくならない町だと思いますが、紀美野町もあちこちで、町おこし活動が熱心です。それを応援する地域おこし協力隊員も来てくれてます。卒業後この町に住んで、起業される方も多くいるというの

は、「本当にいいなあ」と思っています。自伐型林業の地域おこし協力隊の方も、紀美野で家を購入され、夫婦で住まわれている方もいます。このような事業により町の人口が少しでも増えてくれればと思っています。

紀美野町に魅力があるから移住されるものだと思います。子育て支援県下一を指しているということも、県内外へもっと発信して、紀美野に関心を持っていただき、紀美野町へ移住し、子育てをしたいと思ってもらえればと考えています。

九鬼：子育て支援の水準は県下でも上位の方なのですか。

町長：私は、県下一だと思っています。

大前：子育て支援策も、制度的なお金の部分だけでなく、相談や支援のクオリティも問われますよね。

町長：制度的なものをハードとすれば、ソフト的なもの、相談業務や保育士さんの業務の質を向上させるのが大事なところで、職員にお願いしているところですよ。

九鬼：移住者は、紀美野の魅力で来られるのですが、地元の子どもが大学へ行って都会で就職することもあると思う

のです。Uターンで帰るというのはどうなのでしょう。

町長：Uターンで帰ってきてもらうためにいろいろ施策もやっています。Uターン者などの紀美野町への移住者には3万円の奨励金も出す。今年度20歳を迎える方には20歳の贈り物ということで、ふるさと産品を送り、ふるさとを忘れないようにしてもらう取り組みをしています。子育て支援の最終に、大学の奨学金の返還補助を、紀美野町へ帰ってくる条件で行っています。奨学金を借りて大学に行き、卒業後紀美野に帰り、家から、町内外へ勤められる方にも奨学金返済に対し補助します。地元に戻るきっかけになればいいと考えています。

大前：最後に町長から紀美野町を、こんなまちにしていきたいというようなことがありましたらお願いしたいのです。

町長：繰り返しになりますが小さい町ですが、まちが元気で、活気があって、町民が笑顔でキラリと光るようなまちを目指したいですね。

大前：お忙しい中、紀美野町の魅力や施策を聞かせていただきありがとうございました。本日はありがとうございました。